

1. 韓国語会話の文字化作業

- データ収集:2001年8月、2002年1月
- データ数:ベース1人当たり6会話、男女ベース3人ずつの36会話
- 文字化の分数:1会話あたり最初から3分間、計108分
- 文字化作業期間:2002年4月~10月
- 作業者:金庚芬、李恩美、朴銀南、辛銀眞、鄭榮美
- 文字化作業過程
 - 2002年4月
 - ・ 作業参加者5人が36会話の1次文字化作業に着手
 - ・ 日本語における基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)に基づき、文字化作業を行う。
 - ・ 表記法の異なる発音の表記についての話し合い
 - ・ 韓国語における発話文の認定の基準についての話し合い:BTSJに基づいて
 - 2002年5月
 - ・ 分かち書きについての話し合い
 - ・ 韓国語における発話文の認定の基準についての話し合い
 - ・ 1次文字化の完成:テープ、フロッピー・ディスク、印刷物の持参
 - ・ 担当を替えて、2次チェックを行う
 - ・ 2次チェックは、1次文字化されたものを印刷し、テープを聴きながら、改行や記号、発話内容などのチェックを行い、1次文字化の担当者と一緒に再度チェックを行う。
 - ・ BTSJへの追加事項への話し合い:記号の半角、ラッチングなど
 - ・ 韓国語版の文字化の原則についての話し合い
 - 2002年6月
 - ・ 韓国語の文法書の学習
 - ・ 2次チェックの完成
 - ・ 改行に迷う例などを皆で話し合い、解決する。
 - ・ BTSJの韓国語訳作業
 - ・ フォローアップ・アンケートの集計(木林理恵)
 - ・ エクセルの入力書式の提案 BTSJへの追加を提案
 - ・ 共同プロジェクトの参加者全員のBTSJについての話し合い
 - ・ BTSJ改訂への話し合い
 - 2002年7月
 - ・ BTSJ改訂版に入力書式を追加、改行法と発話文についての文言の修正、新たな記号の追加
 - ・ 参加者全員のBTSJ修正案の提出
 - 2002年8~9月
 - ・ 改行の一致度の測定:各会話の最初の1分間、計36分の会話の文字化に対して一致度を測る。担当は、2次チェックした人と3次チェックを行う予定の人が一緒に計る(36会話の改行における一致度の平均0.91)。
 - ・ 担当を替えて、3次チェックを行う
 - 2002年10月~2003年3月
 - ・ BTSJ改訂版作業への参加

2. 韓国語会話の文字化作業の中で考えたこと

表記について:韓国語は、定められている表記法(「ハングルつづり法」と実際の発音が異なるため、会話を文字化する際、どうすればいいのか迷うことが多々ある。ハングルつづり法に従うと、実際の発音を生かした表記にならない。しかし、発音どおり表記すると、読みやすさに妨げになりかねないことがある。そこで、私たちは、原則的にハングルつづり法に従い、文字化することにし、また、会話の中で現れる様々な発音現象は十分表記に反映しながら、BTSJに従い、それらの発音の元の表記をも記しておくことにした。

分かち書きについて:韓国語を表記する際、考慮しなければならない、もう一つの点は、分かち書きである。ハングルつづり法では、「文の各単語は分かち書きを原則とする」となっている。分かち書きは、表音文字であるハングルで表記したものの内容の理解に役立つもので、韓国語表記では重要視される。しかし、会話を文字化する際の分かち書きには注意を払わなければならないことがある。即ち、分かち書きにおけるスペース自体が言葉と言葉の間(ポーズ)を表していることではない、ということである。そこで、私たちはBTSJでの音声的な情報の中で、短い間(ポーズ)を示している記号の「,」を用い、言葉と言葉の短い間(ポーズ)を表すことにした。

- * 本稿は、東京外国語大学の宇佐美まゆみ教授の指導のもと、以下の研究協力者たちとの共同作業を経て、まとめたものである。

作業者:金庚芬、李恩美、朴銀南、辛銀眞、鄭榮美